

令和8年度

授業シラバス・
年間指導計画

地歴・公民
(2年)

令和8年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

| 教科名 | 科目名(校内名称) | 単位数 | 教材 |
|--------|--------------|-----|--------------------------|
| 地理・歴史科 | 日本史探究(日本史探究) | 3 | 教科書『詳説 日本史』(日探705) 山川出版社 |

| | |
|--------|---|
| 学習のねらい | <p>我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて迅速にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。</p> |
|--------|---|

| | |
|------------|--|
| 授業形態・アドバイス | 各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。 |
|------------|--|

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------------|--|--|--|
| 評価の基本的な考え方 | 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、習資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べよとめる技能を身につけるようにする。 | 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意味、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 | 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国史としての自覚、我が国の歴史に対する愛憎、他国や外国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 |
| 育てたい技能(資質・能力)との関連 | ・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にとらえる力 | ・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力 | ・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力 |
| 主な評価方法 | 定期考査 課題 観察 ペアワーク等 | 定期考査 レポート 発表 | 課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価 |

| 学期 | 学習内容 | 学習の到達目標 | | |
|----|------------------------------|--|--|--|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 前期 | 第1章 日本文化のあゆみ 第2章 古墳とヤマト政権 | <ul style="list-style-type: none"> 旧石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と東亞と大陸との影響に着目して理解している。 国家の形成、古墳文化、推古天皇らの統攝運営や飛鳥文化について、中国大陸・朝鮮半島との関連などに着目して理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 考古資料をもとにして、旧石器文化から弥生時代までの生活について考察し、表現している。 中国の歴史書や国内外の史料に基づいて日本と中国大陸や朝鮮半島との関係から、当時の日本の様子について考察し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> 原始の各文化について、その特色を明らかにしようとしている。 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、古墳時代や推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に探究しようとしている。 |
| | 第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の興隆 | <ul style="list-style-type: none"> 律令体制の成立とその展開について、隋・唐など中国王朝との関係や文化の影響などに着目し、理解している。 律令体制の官制と格別政治と国風文化についてその特徴を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 律令体制に基づく土地制度や墓所文化の影響を受けた天智文化について考察し、表現を示して表現している。 国際関係の変化や唐土信仲などに着目し、平安時代の政治や文化について考察し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> 平城京の造営と奈良時代の政治の整備に着目し、律令体制の展開に際する課題を主体的に探究しようとしている。 平安時代の地方の動向が政治や社会にもたらした影響を明らかにしようとしている。 |

| | | | | |
|--------|---|--|--|---|
| | 第5章 院政と武士の 興衰 | 貴族社会や士族制度の衰容などをもとに、新資料を加え、古代から中世の国家・社会の発展を整理している。 加賀藩から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。 | 武士の台風の原質や士族制度の仕組みを考察し、古代から中世への時代の転換について、概要を示して表現している。 武士の土地支配の持つ意味について多角的・多面的に考察し、表現している。 | 中世社会の特色について時代を通過する間を表現し、追究しようとしている。 古代との比較などを通して、中世の特色を追究しようとしている。 |
| | 第6章 室町幕府の成 立 第7章 徳川幕府の成 長 | 鎌倉期から鎌倉幕府と室町幕府の特徴やその時代の文化について理解している。 院政の治癒や院政の文化について文化の地方伝播や戦国大名の台場などを関連付けて理解している。 | 院政と公家の二元支配と両者に開く文化の発展について考察し、整理を示して表現している。 戦国大名による富国強兵専ら着目して、戦国政治の特色について加賀藩から考察し、表現している。 | 宋・元などヨーロッパとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 室町時代に成立した村の自治的運営が現代社会における自治などのように異なるかを主体的に追究しようとしている。 |
| | 第8章 近世の基調は 第9章 幕藩体制の成 立と展開 | 幕藩体制下の支配体制や階層的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 幕藩の発達と文化の担い手に注目して、17世紀の文化と特徴などについて、史料を読み取り、理解している。 | 幕藩体制の動機と文化の展開の動機について、加賀藩から読み取れる情報をもとに考察し、表現している。 幕藩体制の文化と影響などに着目して、幕藩政治の動機と幕藩の動向について考察し、表現している。 | 幕藩体制が確立する過程における様々な動向について考察し、主体的に追究しようとしている。 幕藩体制における交通・流通の発達や幕藩の興隆などの動向について、その推移や展開を明らかにしようとしている。 |
| 近 世 | 第10章 幕藩体制の 動機 | 幕藩・幕藩の動機や官制一掃などの史料から情報を読み取り、三大改革や田沼の幕政風の意義について理解している。 経済経済と文化の関係などに着目して17世紀初期の経済や文化について理解している。 | 幕藩体制の動機と文化の展開の動機について、加賀藩から読み取れる情報をもとに考察し、表現している。 幕藩体制の文化と影響などに着目して、幕藩政治の動機と幕藩の動向について考察し、表現している。 | 幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や幕藩・幕藩の改革の文化について、主体的に追究しようとしている。 幕藩体制に形成された文化と近代以降の文化との連続性についてつながらを見出すようとしている。 |
| | 第11章 近世から近 代へ 第12章 近代国家の 成り | 政治・経済の変化と思想への影響などに着目して幕藩体制の崩壊と新政府の成立と中央集権化について理解している。 加賀藩をもとに自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定・公布開設にいたる過程を整理している。 | 日本が産出した動向を踏まえ、幕藩体制崩壊の日本の動向を考察し、表現している。 幕藩体制の改革が地域社会にもたらした変化やヨーロッパ諸国との関係などについて考察し、表現している。 | 幕藩の政治崩壊の過程を考察し、近代の学習へのつながりを主体的に見出すようとしている。 自由民権運動の展開過程を考察し、幕藩の政治の崩壊がもたらした開明を主体的に追究しようとしている。 |
| | 第13章 近代国家の 展開 第14章 近代の社会と 生活 | 日清戦争から第一次世界大戦にいたる過程について諸資料をもとに整理している。 幕藩体制の崩壊について適切に情報を読み取り、地域社会におきた社会環境について理解している。 | 大戦中の日本の動向を踏まえ、アジア近隣諸国が日本の対外交渉をどのように受け止めたかを考察し、表現している。 都市の発展や生活の変化など地域社会の発展について多角的に考察し、表現している。 | 対外的な戦争が日本の近代化においてどのような意味をもったかについて考察し、追究しようとしている。 幕藩体制の文化に開く幕藩と国民の動向を考察することにより、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。 |
| | 第15章 海軍と第 二次世界大戦 | 国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、海軍と国際関係について理解している。 戦争の進捗と国民生活の影響などに着目して、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。 | 海軍軍艦などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などについて多角的・多面的に考察し、表現している。 戦争が拡大した理由について、日本における愛国主義的な国家体制の基盤について考察し、整理を示して表現している。 | 満州事変や国内の国家改進黨の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした開明を主体的に追究しようとしている。 日中戦争から太平洋戦争にいたる過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に追究しようとしている。 |
| | 第16章 占領下の日 本 第17章 高度経済成 長の時代 第18章 激動する改革 と日本 | 占領政策の転換による日本の政治や経済の文化について史料から読み取り、サンフランシスコ平和条約締結による日本の主権回復の意義について理解している。 冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目し、日本の経済成長や高度成長期の国民生活の文化について理解している。 | 戦後の諸改革が連合国の対日占領政策に基づくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ、実施されたことについて考察し、表現している。 日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多角的・多面的に考察し、その結果を表現している。 | 55年体制の歴史的意義や保守政権の交代を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に整理を見出すようとしている。 冷戦時体制の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら整理を見出して主体的に追究しようとしている。 |
| 近 世 | | | | |

令和8年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

| 教科名 | 科目名(校内名称) | 単位数 | 教科書 |
|--------|--------------|-----|---------------------------|
| 地理・歴史科 | 日本史探究(日本史探究) | 3 | 教科書『詳説 日本史』(日探 7D5) 山川出版社 |

| | |
|------------|--|
| 学習の ねらい | <p>我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> |
|------------|--|

| | |
|---------------------|--|
| 授業形態・ アドバイス 等 | 各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的な課題を提出してもらいます。 |
|---------------------|--|

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|------------------------------|---|--|---|
| 評価の 基本的な 考え方 | 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら統合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的にとらえまとめる技能を身につけるようにする。 | 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 | 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他地域の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 |
| 育てたい 生徒の 資質・能力 との関連 | <ul style="list-style-type: none"> ・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にとらえまとめる力 | <ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力 |
| 主な 評価方法 | 定期考査 課題 観察 ペアワーク等 | 定期考査 レポート 発表 | 課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価 |

| 学期 | 学習内容 | 学習の到達目標 | | |
|----|-------------------------------|---|---|---|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 前期 | 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 | <ul style="list-style-type: none"> 旧石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と変容を大陸との影響に着目して理解している。 国家の形成、古墳文化、推古天皇らの政権運営や飛鳥文化について、中国大陸・朝鮮半島との関連などに着目して理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 考古資料をもとにして、旧石器文化から弥生時代までの生活について考察し、表現している。 中国の歴史書や国内外の史料に基づいて日本と中国大陸や朝鮮半島との関係から、当時の日本の様子について考察し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> 原始の各文化について、その特色を明らかにしようとしている。 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、古墳時代や推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開 | <ul style="list-style-type: none"> 律令体制の成立とその展開について、隋・唐など中国王朝との関係や文化の影響などに着目し、理解している。 律令体制の変容と攝關政治と国風文化についてその特徴を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 律令体制に基づく土地制度や盛唐文化の影響を受けた天平文化について考察し、根拠を示して表現している。 国際関係の変化や浄土信仰などに着目し、平安時代の政治や文化について考察し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> 平城京の造営と奈良時代の政治の動向に注目し、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。 平安時代の地方の動向が政治や社会に与えた影響を明らかにしようとしている。 |
| 後期 | 第5章 院政と武士の躍進 | <ul style="list-style-type: none"> 貴族社会や土地制度の変容などをもとに、諸資料を調べ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 武士の台頭の背景や土地制度の仕組みを考察し、古代から中世への時代の転換について、根拠を示して表現している。 武士の土地支配の持つ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> 中世社会の特色について時代を連続する間を表現し、追究しようとしている。 古代との比較などを通して、中世の特色を追究しようとしている。 |
| | 第6章 武家政権の成立 第7章 武家政権の成長 | <ul style="list-style-type: none"> 諸資料から鎌倉幕府と室町幕府の特徴やその時代の文化について理解している。 庶民の活動や庶民の文化について文化の地方伝播や戦国大名の登場などを関連付けて理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 武家と公家の二元支配と両者に関わる文化の特徴について考察し、根拠を示して表現している。 戦国大名による裏田指兵策に着目して、領国統治の特色について諸資料から考察し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> 宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 室町時代に成立した村の自治的運営が現代社会における自治とどのように異なるかを主体的に追究しようとしている。 |
| | 第8章 近世の展開 第9章 幕藩体制の成立と展開 | <ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 都市の発達と文化の担い手に注目して、17世紀の文化と特徴などについて、史料を読み取り、理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて、多角的・多面的に考察し、表現している。 戦乱のない時代が創出された意義を踏まえ人々の意識がどのように変化したのかを考察し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。 近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。 |
| 備考 | | | | |

令和8年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

| 教科名 | 科目名(校内名称) | 単位数 | 教材 |
|--------|--------------|-----|--------------------------|
| 地理・歴史科 | 世界史探究(世界史探究) | 3 | 教科書『詳説 世界史』(世探701) 山川出版社 |

| | |
|--------|---|
| 学習のねらい | <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に必要の公民としての資質・能力を育成することを旨とする。</p> <p>1 学習の到達目標</p> <p>① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛憎、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> |
|--------|---|

| | |
|-------------|--|
| 授業形態・アドバイス等 | 各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。 |
|-------------|--|

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------------|---|---|--|
| 評価の基本的な考え方 | 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 | 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 | 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛憎、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 |
| 育てたい生徒像(資質・能力)との関連 | ・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力 | ・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論し表現する力 | ・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力 |
| 主な評価方法 | 定期考査 課題 観察 ペアワーク等 | 定期考査 レポート 発表 | 課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価 |

| 学期 | 学習内容 | 学習の到達目標 | | |
|----|--|--|---|--|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 前期 | 第1章 古代文明の成立と古代文明の特質 | ・オリエント文明、インドス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的変遷を理解している。 | ・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を特定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、異質・独自の風俗などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 「古代文明の出現」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組んでいる。 |
| | 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 | ・秦・漢と匈奴国家、唐と吐蕃諸国の動向、仏教の成立とインド圏、南アジアの諸国家などを基に、東アジアと中央ユーラシア、南アジアの歴史的変遷を理解している。 | ・東アジアと中央ユーラシア、南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸文明相互の関わりなどに着目し、主題を特定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と吐蕃諸国との関係、漢代風の社会の特色と周辺諸地域との関係、南アジアにおける宗教や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 「東アジアと中央ユーラシア」と「南アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 |

| | | | |
|---|---|--|---|
| 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 第5章 西アジアと地中海周辺の国家形成 第6章 西アジアと地中海周辺の国家形成 | 西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。 | 西アジアと地中海周辺の歴史に關する諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、補資料を比較したり関連づけたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特質などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 「西アジアと地中海周辺」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。 |
| 第7章 ヨーロッパ世界の形成と展開 | 西アジア社会の動向とイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に、地域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 | 諸地域の交流の広がりに關する諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、補資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因やヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 「イスラーム世界の拡大と展開」や「中世ヨーロッパ」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。 |
| 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 第9章 東アジア・大交通の時代 | 東の社会とモンゴル帝国拡大、アジア海域での交易開拓、明と日本・朝鮮の動向、スペイン・ポルトガルの活動などを基に、地域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりとヨーロッパの進出を構造的に理解している。 | 諸地域の交流の広がりに關する諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、補資料を比較したり関連づけたりして読み解き、中国社会の特色やモンゴル帝皇が果たした役割やアジア海域での交易の発展、ユーラシアとアメリカ大陸間の貿易の発展とアメリカ大陸の発見などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 「東アジア世界の形成とモンゴル帝国」や「大交通時代と世界の一体化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。 |
| 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 第11章 近代ヨーロッパ世界の動向 | 西アジアや東アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向や宗教改革とヨーロッパ諸国の競争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想を基に、アジア諸地域の特質や主権国家体制形成と地帯規模での貿易の拡大を構造的に理解している。 | アジア諸地域やヨーロッパ諸地域の動向に關する諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、補資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸帝国の政治の特色、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外開拓の特色や宗教改革の意義、大西洋三角貿易の発展と地帯規模での貿易の拡大の発展、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 「ヨーロッパ諸帝国の繁栄」や「主権国家体制の形成と地帯規模での貿易の拡大」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。 |
| 後期 | 第12章 産業革命と近代西洋革命 第13章 イギリスの覇権と欧米列強国家の形成 | 産業革命と近代西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の意義や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と改革などを基に、国民国家と近代化と分業体制の形成や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と改革を構造的に理解している。 | 「国民国家と近代化」や「世界市場の形成とアジア諸国の貿易」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。 |
| 第14章 アジア諸地域の動向 | 第二次産業革命と帝国主義諸国の競争、アジア諸国の改革などを基に、世界分業の進展とナショナリズムの広まりを構造的に理解している。 | 列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に關する諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、補資料を比較したり関連づけたりして読み解き、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの発展などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 「アジア・アフリカの諸国の政治的動向と世界分業の進展」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。 |
| 第15章 第一次世界大戦と世界の形成 第16章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 | 第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体系の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムや、世界恐慌とファシズムの台頭、ヴェルサイユ・ワシントン体系の動向などを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の競争、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。 | 第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向と世界恐慌と国際協定体制の動向に關する諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、補資料を比較したり関連づけたりして読み解き、第一次世界大戦後の国際協定体制の特色、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの特色や、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特色、第二次世界大戦に關する国際協定の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 「第一次世界大戦の展開と諸地域の競争」や「国際協定体制の動向と第二次世界大戦」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。 |
| 第17章 冷戦と第三世界の台頭 | 国際安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、先進国の経済成長と南北問題、原子力の利用などを基に、紛争解決の取り組みと課題、特長の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の発展と課題を理解している。 | 国際秩序の形成と紛争、国際競争の展開と経済発展、科学技術の高度化と知識基盤社会に關する諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、補資料を比較したり関連づけたりして読み解き、国際協定と国際協定の共通点と相違点、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化などの質的変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | 「冷戦の世界化と国際協定」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。 |
| 第18章 冷戦の終結と今日の世界 | | | 「冷戦の終結と経済のグローバル化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組みようとしている。 |
| 備考 | | | |

令和8年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

| 教科名 | 科目名(校内名称) | 単位数 | 教材 |
|--------|--------------|-----|--------------------------|
| 地理・歴史科 | 世界史探究(世界史探究) | 3 | 教科書『詳説 世界史』(世探701) 山川出版社 |

| | |
|--------|--|
| 学習のねらい | <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に必要の公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>1 学習の到達目標</p> <p>① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意図、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりするかや、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> |
|--------|--|

| | |
|-------------|--|
| 授業形態・アドバイス等 | 各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。 |
|-------------|--|

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------------|---|---|--|
| 評価の基本的な考え方 | 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 | 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意図、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりするかや、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 | 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 |
| 見たい生徒像(学習・取り組み)との関連 | ・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力 | ・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論し表現する力 | ・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力 |
| 主な評価方法 | 定期考査 課題 観察 ペアワーク等 | 定期考査 レポート 発表 | 課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価 |

| 学期 | 学習内容 | 学習の到達目標 | | |
|----|--------------------------|--|---|---|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 前期 | 第1章 文明の成立と古代文明の特質 | ・オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解している。 | ・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・「古代文明の出現」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 |
| | 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 | ・唐・漢と西域国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアの諸国家などを基に、東アジアと中央ユーラシア、南アジアの歴史的特質を理解している。 | ・東アジアと中央ユーラシア、南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、西域民の社会の特質と周辺諸地域との関係、南アジアにおける宗教や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・「東アジアと中央ユーラシア」と「南アジア」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 |
| | 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 | | | |
| | 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 | ・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。 | ・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特質などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・「西アジアと地中海周辺」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 |
| | 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 | | | |
| 後期 | 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 | ・西アジア社会の動向とイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 | ・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因やヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・「イスラーム世界の拡大と繁栄」や「中世ヨーロッパ」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 |
| | 第7章 ヨーロッパ世界の交響と展開 | | | |
| | 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 | ・宋の社会とモンゴル帝国拡大、アジア海域での交易展開、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりとヨーロッパの進出を構造的に理解している。 | ・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、中国社会の特質やモンゴル帝国が果たした役割やアジア海域での交易の特質、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特質とアメリカ大陸の交響などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・「中華世界の交響とモンゴル帝国」と「大交易時代と世界の一体化」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 |
| | 第9章 大交易・大交流の時代 | | | |
| | 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 | ・西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向や宗教改革とヨーロッパ諸国の競争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想を基に、アジア諸地域の特質や主権国家体制形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。 | ・アジア諸地域やヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸帝国の統治の特質、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特質や宗教改革の意義、大西洋沿岸諸地域の経済的展開の特質、主権国家の特質と経済活動との関連、ヨーロッパ社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・「ユーラシア諸帝国の繁栄」や「主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 |
| | 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 | | | |
| 備考 | | | | |

令和8年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

| 教科名 | 科目名(校内名称) | 単位数 | 教材 |
|------|-----------|-----|---|
| 地理歴史 | 地理探究 | 2 | 新詳 地理探究(赤尾書院) 新詳 高等地図(赤尾書院) 新編 地理資料2026(とうほう) データブックオブザワールド2026(ニギ書院) 地理用語集(山川出版) |

| | |
|------------|--|
| 学習の ねらい | <p>地理総合の学習によって身につけた資質・能力をもとに、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。</p> |
|------------|--|

| | |
|---------------------|--|
| 授業形態 アドバイス など | <p>授業形態は、各クラスでの一斉授業となります。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。積極的に参加することで思考力や表現力を養いましょう。定期的に課題も提出してもらいます。年に5回定期考査を実施する予定です。</p> |
|---------------------|--|

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------------------------|--|--|--|
| 評価の 基本的な 考え方 | <p>世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や証資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。</p> | <p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連性、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、観念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて着想したりする力や、考察、着想したことを効果的に説明したりすることができる。さらに、それらをもとに議論したりすることができる。</p> | <p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題も主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛憎、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを持つことができる。</p> |
| 育たいたい 生徒像 (資質・能力 との関連) | <p>主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。</p> | <p>社会的事象について、地理的な見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察したり自らの考えを表現したりする力。</p> | <p>広い視野に立ち、グローバル化する国際社会において、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。</p> |
| 主な 評価方法 | <p>定期考査 観察 ペアワーク</p> | <p>定期考査 レポート 発表</p> | <p>ノートやレポーターの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価</p> |

| 学期 | 学習内容 | 学習の到達目標 | | |
|----|--|---|---|---|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 前期 | 1節 地形 1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形 | 地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて理解している。 | 地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形の成因や、人間活動とどのように関わっているかについて考察することができる。 | 地形について、よりよい社会の実現を視野に十二でみられる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 2節 気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生物系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象 | 気温や降水量、風などを要素とする気候の違いのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて理解している。 | 気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 | 気候について、気候変動や異常気象の原因について理解し、その対策やよりよい社会の実現における課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 3節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 3 気候に伴う災害と防災・減災の取り組み | 日本列島の地形や気候なども様々な自然環境の特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて理解している。 | 日本の地理的環境が自然災害とどのように関係しているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 | 日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 4節 地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み | さまざまな地球環境問題の要因や解決についての取り組みを理解している。 | 地球と人間が共存できる持続可能な社会をつくり出すために自身のできることを考えることができる。 | 持続可能な社会に向けての課題について図書館やインターネットで調べたり、グループで話し合ったりできる。 |
| 後期 | 1節 農林水産業 1 畜産の発達と分布 2 畜産の地域区分 3 現代世界の畜産の現状と課題 4 日本の畜産の現状と課題 5 世界と日本の林産 6 世界と日本の水産産 | 世界の農林水産物の現状について、自然環境とどのように関わっているかについて理解している。 | 農林水産物の分布についての背景を考察することができる。 | 持続可能な農林水産物のあり方について、課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題 | 食料の分配の世界的な偏りや、飢餓や飢饉の原因について理解している。 | 世界の食料問題の原因や背景について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 | 食料の偏りにむけて必要な取り組みを調べたり、発表したりすることができる。 |
| | 3節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用 | 世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、生産や消費の不均等をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解している。 | エネルギーや電力についての課題を考察することができる。 | 持続可能な社会に向けて、今後のエネルギーや電力のあり方について探究しようとしている。 |
| | 4節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題 | 資源・エネルギー問題について、社会的背景をもとに理解している。 | 資源・エネルギー問題について持続可能な社会の構築のために必要なことを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 | エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 5節 工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地帯 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業 | 工業はどのように発展し、現在はどのような分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解している。 | グローバルな視点に立ち、今後の工業の発展にはどのような取り組みが必要か考察し、表現することができる。 | 持続可能な社会の構築において、今後の工業のあり方について主体的に追究しようとしている。 |
| 備考 | | | | |

令和8年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科2年 シラバス

| 教科名 | 科目名(校内名称) | 単位数 | 教材 |
|-----|-----------|-----|---|
| 地歴 | 地理総合 | 1 | ・「高等学校 地理総合―世界を学び、地域をつくる」(第一学習社) ・「新詳高等地図」(帝国書院) ・コネクト 地理総合(第一学習社) ・地理総合ノート(第一学習社) |

| | |
|--------|---|
| 学習のねらい | <p>地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした探究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進む国際理解の必要性が増している現代において主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。</p> |
|--------|---|

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 アドバイス など | <p>授業形態は、各クラスでの一斉授業です。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。定期的に課題を提出してもらいます。年に5回定期考査を実施する予定です。</p> |
|---------------------|---|

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------------|---|--|--|
| 評価の基本的な考え方 | <p>世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や録資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。</p> | <p>地理に関わる事象の意味や意味、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存性用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p> | <p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするなどの大切さについての自覚などを深める。</p> |
| 育つたい生徒像(資質・能力)との関連 | <p>主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。</p> | <p>社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざして追究する力。</p> | <p>広い視野に立ち、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。</p> |
| 主な評価方法 | <p>定期考査 観察 ペアワーク</p> | <p>定期考査 レポート 発表</p> | <p>ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価</p> |

| 学期 | 学習内容 | 学習の到達目標 | | |
|----|---|---|--|--|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 前期 | 2章 地球的課題と国際協力 ①持続可能な開発目標(SDGs)②地球的課題の地理的な側面③貧困問題④人口問題⑤食料問題⑥持続可能な水の利用⑦健康・福祉問題⑧教育・ジェンダー問題⑨技術革新と持続可能な産業化⑩限りある資源⑪エネルギー問題⑫都市・居住問題⑬地球温暖化問題⑭陸地の環境問題⑮海洋の環境問題 | ・持続可能な開発目標(SDGs)の考え方を学び、地理で学習する地球的課題が教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。 -人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 | ・SDGsの達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学び、消費者としての取組を通して、自らの行動を見直すことができる。 | ・各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を図書館やインターネットなどで調べ、話し合うことができる。 |
| | 3章 持続可能な地域づくりと私たち①地球規模で見る地形の姿と自然災害②人々の暮らしを取りまく自然環境③変動帯の自然と防災④温帯地域での自然と防災⑤私たちができる災害への備え⑥地域調査の方法 | ・世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。 ・地域調査について、積極的な調査を実施できるよう、地域調査の必要性を理解し、地域調査の基本を身につける。 | ・自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。 | ・自然災害に備えるためには、ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解し、災害に見舞われた際なるべく被害を減らせる(減災)できるよう、地域防災力を高めるために個人ができることを積極的に話し合うことができる。 |
| 備考 | | | | |

令和8年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科2年 シラバス

| 教科名 | 科目名(校内名称) | 単位数 | 教科 |
|------|-----------|-----|---|
| 地理歴史 | 地理探究 | 1 | 新詳 地理探究(帝国書院) 新詳 高等地図(帝国書院) 新編 地理資料2026(とうほう) データブックオブザワールド2026(ニ宮書店) 地理用語集(山川出版) |

| | |
|--------|--|
| 学習のねらい | <p>地理総合の学習によって身につけた資質・能力をもとに、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。</p> |
|--------|--|

| | |
|---------------------|--|
| 授業形態 アドバイス など | <p>授業形態は、各クラスでの一斉授業となります。適宜、グルーブ学習やペアワークを取り入れていきます。積極的に参加することで思考力や表現力を養いましょう。定期的に課題も提出してもらいます。年に5回定期考査を実施する予定です。</p> |
|---------------------|--|

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り込む態度 |
|------------------------|---|--|---|
| 知識の基本的な考え方 | <p>世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。</p> | <p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりすることができる。さらに、それらをもとに論議したりすることができる。</p> | <p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国への愛着、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを持つことができる。</p> |
| 身につけたい資質・能力(資質・能力)との関連 | <p>主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。</p> | <p>社会的事象について、地理的な見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察したり自らの考えを表現したりする力。</p> | <p>広い視野に立ち、グローバル化する国際社会において、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組みむ力。</p> |
| 主な評価方法 | <p>定期考査 観察 ペアワーク</p> | <p>定期考査 レポート 発表</p> | <p>ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価</p> |

| 学期 | 学習内容 | 学習の到達目標 | | |
|----|--|--|---|---|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 前期 | <p>1節 地形</p> <p>1 地形の成因と地殻変動の状況</p> <p>2 地球規模の大地形</p> <p>3 河川流域と海岸にみられる小地形</p> <p>4 そのほかの特徴的な小地形</p> <p>2節 気候</p> <p>1 気候の成り立ち</p> <p>2 気候と生態系</p> <p>3 世界の気候区分</p> <p>4 さまざまな気候帯</p> <p>5 気候変動と異常気象</p> | <p>地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて理解している。</p> <p>気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて理解している。</p> | <p>地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形の成因や、人間活動とどのように関わっているかについて考察することができる。</p> <p>気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> | <p>地形について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>気候について、気候変動や異常気象の原因について理解し、その対策やよりよい社会の実現における課題を主体的に追究しようとしている。</p> |
| 後期 | <p>3節 日本の自然環境</p> <p>1 日本の地形</p> <p>2 日本の気候</p> <p>3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み</p> <p>4節 地球環境問題</p> <p>1 地球環境問題とは</p> <p>2 さまざまな地球環境問題</p> <p>3 地球環境問題の解決に向けた取り組み</p> | <p>日本列島の地形や気候など多様な自然環境の特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて理解している。</p> <p>さまざまな地球環境問題の原因や解決についての取り組みを理解している。</p> | <p>日本の地理的環境が自然災害とどのように関係しているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>地球と人間が共存できる持続可能な社会をつくり出すために自身のできることを考えることができる。</p> | <p>日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>持続可能な社会に向けての課題について図書館やインターネットで調べたり、グループで話し合ったりできる。</p> |
| 備考 | | | | |

令和8年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

| 教科名 | 科目名(校内名称) | 単位数 | 教材 |
|-----|-----------|-----|--------------------|
| 公民科 | 公共 | 2 | 教科書：『改訂版 公共』(数研出版) |

| | |
|------------|--|
| 学習の ねらい | <p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、読資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き國民主体を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p> |
|------------|--|

| | |
|---------------------|--|
| 授業形態 アドバンス など | 各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。 |
|---------------------|--|

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------------------------------|--|--|---|
| 評価の 基本的な 考え方 | 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、読資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 | 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。 | 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 |
| 育てたい 生徒の 資力 (資質・能力) との関連 | <ul style="list-style-type: none"> 概念や理論について理解する力 情報を適切かつ効果的にまとめる力 | <ul style="list-style-type: none"> 多面的・多角的に考察し、判断する力 構想したことを議論したり表現する力 | <ul style="list-style-type: none"> 課題解決力 粘り強く取り組む力 自らの学習を調整する力 |
| 主な 評価方法 | 定期考査 課題 観察 ペアワーク等 | 定期考査 レポート 発表 | 課題の取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価 |

| 学期 | 学習内容 | 学習の到達目標 | | |
|----|--|--|--|---|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 前期 | 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚 | ・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解している。 ・古代ギリシアや中国・日本の思想家の思想内容、三大宗教の内容を理解している。 | ・自己形成の課題について考察することができる。 ・先哲の思想や宗教・文化が自分自身の生き方に与えている影響に気づくことができる。 | ・よりよく生きることについての自覚を深められている。 ・自分自身の生き方を検討し、自らにできることを主体的に追究しようとしている。 |
| | 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理 | ・西洋近現代の思想家の思想内容を理解している。 ・地球環境問題など現代の諸課題について理解している。 | ・公共的な空間における人間としてのあり方生き方を考察するための選択・判断の手がかりが考察できている。 | ・選択・判断の手がかりとなる考え方を駆って、現代の諸課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 第3章 公共的な空間における基本原則 第1節 民主社会の基本原則 第2節 日本社会の基本原則 | ・民主政治のあり方を理解している。 ・日本国憲法の三大原則や憲法で保障されている権利を理解している。 | ・国家と個人のあり方を考察することができる。 ・国際情勢の変化にともない、日本の平和主義のあり方がどう変化していったのかを考察することができる。 | ・民主政治と自らの生活との関わりについて理解し、主体的に生きる人間のあり方生き方について深く考えようとしている。 |
| | 第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の問題 | ・日本国憲法にみられる三権相互の関係と役割を理解している。 ・選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題などを理解している。 | ・行政機能の拡大の是非について主体的に考察することができる。 ・日本の政治について課題を発見し、解決する見通しが持たれている。 | ・権威批判や権威投票の実施により批判や選挙を身近に捉え積極的に参加する自覚を持つことができている。 ・主催者として参加しようという意欲を持つことができる。 |
| 後期 | 第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現 | ・市場経済のメカニズムと企業の果たす役割を理解している。 ・金融・財政の仕組みを理解している。 ・戦後日本のあり方が理解できている。 ・私法・契約の原則、労働問題や社会保障について理解している。 | ・需要・供給曲線を使って、価格変動について考察できる。 ・不況や好況など景気の先行きが判断でき、自ら経済の動向を予測できる。 ・現代経済の諸問題について、解決の方法を考察することができる。 | ・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持たれている。 ・経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しが立てられている。 ・雇用・労働問題や社会保障・福祉の課題について主体的に追究しようとしている。 |
| | 第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力 | ・国際連合などの組織と役割を理解している。 ・冷戦の成立と終結後の国際政治の流れを理解している。 ・戦後の国際経済の流れを理解している。 | ・国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できる。 ・発展途上国の現状を知り、自らがどのようなことができるかを考えることができる。 | ・国際社会のなかで戦後日本のあり方を考察し、将来の展望を持つことができる。 ・国際社会の課題について主体的に追究しようとしている。 |
| | 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 課題探究の観点 課題探究の手引き | ・現代社会の諸問題について、その動向の所在、現状、問題点などを理解している。 | ・現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などによって的確に表現できている。 | ・それぞれの選択した課題について、今後も継続して探究しようという意欲を持つことができている。 |
| 備考 | | | | |

令和8年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科2年 シラバス

| 教科名 | 科目名(校内名称) | 単位数 | 教材 |
|-----|-----------|-----|--------------------|
| 公民科 | 公共 | 2 | 教科書:『改訂版 公共』(数研出版) |

| | |
|--------|--|
| 学習のねらい | <p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を固ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p> |
|--------|--|

| | |
|---------------------|--|
| 授業形態 アドバイス など | 各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。 |
|---------------------|--|

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------------------|--|--|---|
| 評価の基本的な考え方 | 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 | 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。 | 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 |
| 育みたい生徒 (資質・能力) との関連 | <ul style="list-style-type: none"> 概念や理論について理解する力 情報を適切かつ効果的にまとめる力 | <ul style="list-style-type: none"> 多面的・多角的に考察し、判断する力 構想したことを議論したり表現する力 | <ul style="list-style-type: none"> 課題解決力 粘り強く取り組む力 自らの学習を調整する力 |
| 主な評価方法 | 定期考査 課題 観察 ペアワーク等 | 定期考査 レポート 発表 | 課題の取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価 |

| 学期 | 学習内容 | 学習の到達目標 | | |
|----|--|--|--|--|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 前期 | 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚 | ・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解している。 ・古代ギリシアや中国・日本の思想家の思想内容、三大宗教の内容を理解している。 | ・自己形成の課題について考察することができる。 ・先哲の思想や宗教・文化が自分自身の生き方に与えている影響を見ることが出来る。 | ・よりよく生きることについての自覚を深められている。 ・自分自身の生き方を検証し、自らにできることを主体的に追究しようとしている。 |
| | 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理 | ・西洋近現代の思想家の思想内容を理解している。 ・地球環境問題など現代の諸課題について理解している。 | ・公共的な空間における人間としてのあり方生き方を考察するための選択・判断の手がかりが考察できている。 | ・選択・判断の手がかりとなる考え方を使得、現代の諸課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理解 第2節 日本社会の基本原理解 | ・民主政治のあり方を理解している。 ・日本国憲法の三大原理や憲法で保障されている権利を理解している。 | ・国家と個人のあり方を考察することができる。 ・国際情勢の変化にともなう、日本の平和主義のあり方がどう変化していったのかを考察することができる。 | ・民主政治と自らの生活との関わりについて理解し、主体的に生きる人間のあり方生き方について深く考えようとしている。 |
| | 第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治権限 第2節 政治参加と民主政治の課題 | ・日本国憲法にみられる三権相互の関係と役割を理解している。 ・選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題などを理解している。 | ・行政機能の拡大の是非について主体的に考察することができる。 ・日本の政治について課題を発見し、解決する見通しが持てている。 | ・権限統制や権限投票の実施により裁判や選挙を身近に捉え積極的に参加する自覚を持つことができている。 ・主権者として参加しようという意欲を持つことができる。 |
| 後期 | 第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機能 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現 | ・市場経済のメカニズムと企業の果たす役割を理解している。 ・金融・財政の仕組みを理解している。 ・戦後日本のあり方が理解できている。 ・私法・契約の原則、労働問題や社会保障について理解している。 | ・需要・供給曲線を使って、価格変動について考察できる。 ・不況や好況など景気の先行きが判断でき、自ら経済の動向を予測できる。 ・現代経済の諸問題について、解決の方法を考察することができる。 | ・消費税や所得税などの税金の使途に関心を持っている。 ・経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しが立てられている。 ・雇用・労働問題や社会保障・福祉の課題について主体的に追究しようとしている。 |
| | 第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力 | ・国際連合などの組織と役割を理解している。 ・冷戦の成立と終結後の国際政治の流れを理解している。 ・戦後の国際経済の流れを理解している。 | ・国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できる。 ・発展途上国の現状を知り、自らがどのようなことができるかを考えることができる。 | ・国際社会のなかで戦後日本のあり方を考察し、将来の展望を持つことができる。 ・国際社会の課題について主体的に追究しようとしている。 |
| | 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ・課題探究の観点 ・課題探究の手引き | ・現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などを理解している。 | ・現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などによって的確に表現できている。 | ・それぞれが選択した課題について、今後も継続して探究しようという意欲を持つことができている。 |
| 備考 | | | | |